

科目名	幼児と音楽表現				
担当者氏名	丸井 理恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	1年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

領域「表現」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の表現する姿やその発達を理解するとともに、感じる・見る・聴く・楽しむことを通して、幼児が感じたことや考えたことを、自分なりに受け止め、その楽しさを実感できるようにする。

《授業の到達目標》

1. 幼児の表現する姿やその発達を理解する。
2. 幼児の音楽表現活動を展開するために様々な表現の知識・技能を身につける。
3. 様々な音楽表現を感じる・見る・聴く・楽しむことを通して幼児の感性とイメージを豊かにできる。
4. 創造的な音楽表現活動（発表）を通して、表現することの楽しさや面白さを実感できる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度及び到達度）・・・25%  
 課題、レポート 25%、  
 実技試験 25%、  
 音楽理論の筆記試験 25%、

《テキスト》

松山 祐士「こどもの歌名曲アルバム」  
 供田 武嘉津「学生の音楽通論」音楽之友社

《参考図書》

必要資料、楽譜、楽器等は、授業内で随時配布、指示、紹介する。各自、配布プリント用ファイル及び五線紙を用意すること。幼稚園教育要領（平成29年告示文部科学省）、幼稚園教育要領 解説（平成30年文部科学省）、保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年文部科学省・厚生労働省・内閣府）

《授業時間外学習》

音楽理論は積み重ねが大切です。また演習科目でもあるため、授業で学習した内容は次回授業までに習得、演奏できるようにしておく事。

《備考（教員経験の有無）》

この教科は高等学校の教員経験に基づき構成しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	幼児保育における音楽の位置づけ	幼児保育の現場で音楽がどのような場面で用いられ、活用されているかをビデオ等を通して観察することを通して、幼児保育における音楽の位置づけを考える。
2	幼児の音楽活動について	様々な楽器の音色や奏法を実際に体験することを通して、幼児の音楽活動について考える。
3	リズムあそびの意義・基礎	様々なリズムを学習し、リズムを用いた遊びの体験を通して培われる要素を探る。
4	ボディパーカッションを用いたリズムあそび	身体のいろんな部位を使って行うボディパーカッションを体験する。グループでボディパーカッションを使ったリズムあそびを考え、発表する。
5	簡易楽器・手作り楽器の扱い方	幼児歌曲や幼児の合奏曲を、簡易楽器や手作り楽器を用いながら実際に演奏する。
6	身近な素材を用いた音楽づくり	身近な素材を使って楽器を作ったり、いろんな場面を想定した効果音作りを体験する。
7	音楽を色や形で描く	音の種類や調の違いなど、「音」を通して感じることを個々に色や形に表すことをする。出来上がった作品を発表し合う。
8	小物楽器によるリズムあそび	小物楽器を合わせながら幼児歌曲を歌う。いろんな小物楽器を組み合わせることができるリズムあそびを考え、発表し合う。
9	ゲームを用いた表現活動	ゲームを通してできるいろんな表現を考え合い、実演する。
10	子どもの発育に合わせた楽器あそび	子どもの発育によって扱える楽器及び奏法の違いを探り、楽器を通してできるあそびを考え、体験する。
11	子どもの年齢に応じた器楽合奏	子どもの発育によって扱える楽器及び奏法の違いを探り、同年齢でできる器楽合奏及び異年齢でできる器楽合奏をグループで考え、発表し合う。
12	鍵盤楽器、打楽器を用いた合奏	グループに分かれて、幼児の合奏曲をクラヴィノーバと打楽器を組み合わせで考え、体験する。
13	コードによる伴奏法	コードの成り立ちを学習し、幼児歌曲をコードのみを使って伴奏する。
14	童謡の伴奏づけ	コードを応用し、幼児歌曲のオリジナル伴奏を考える。
15	授業のふり返り・まとめ	グループで考えた「音楽を使った遊び」を発表し合い、評価し合う。